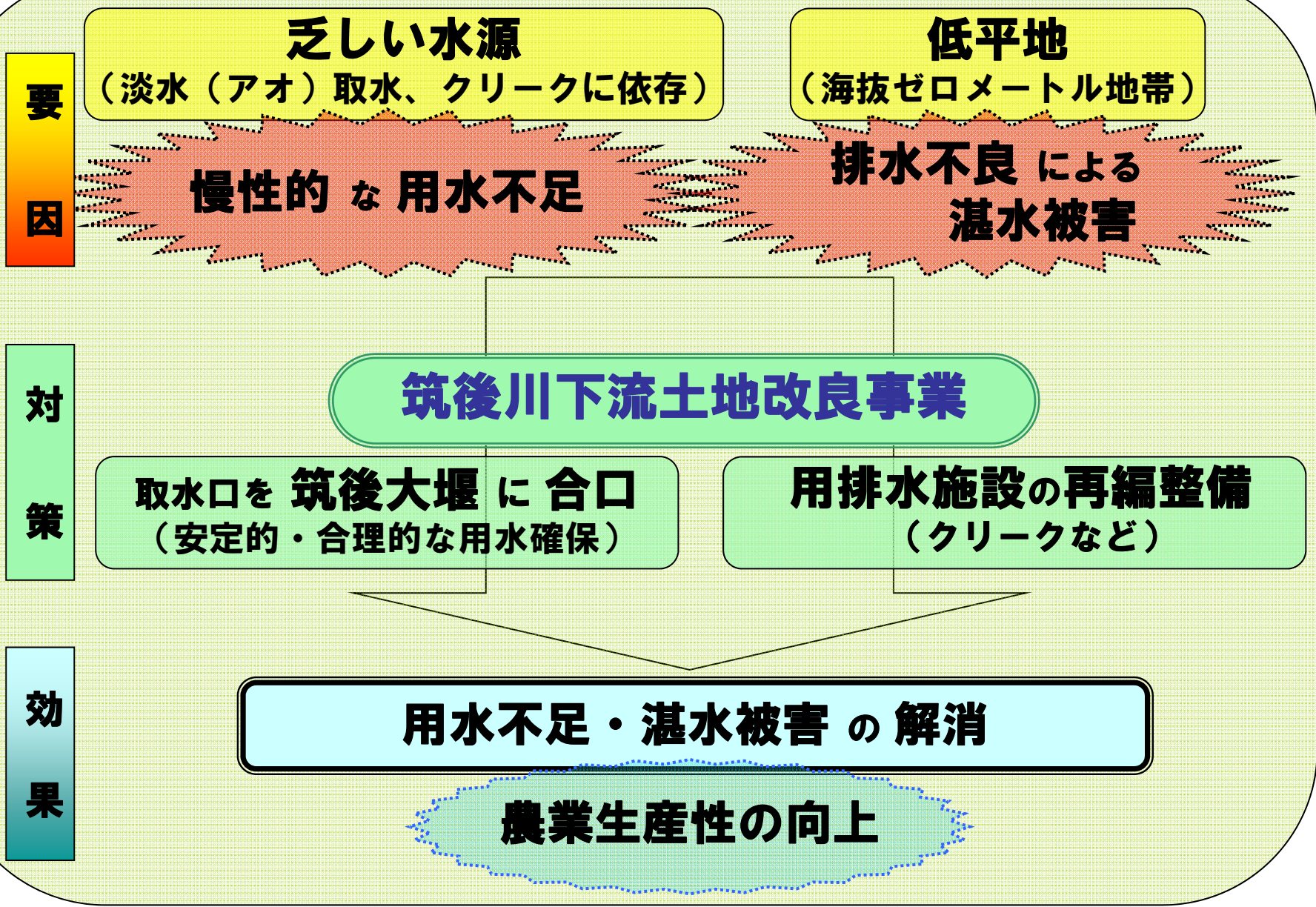


**平成22年度公共事業再評価**

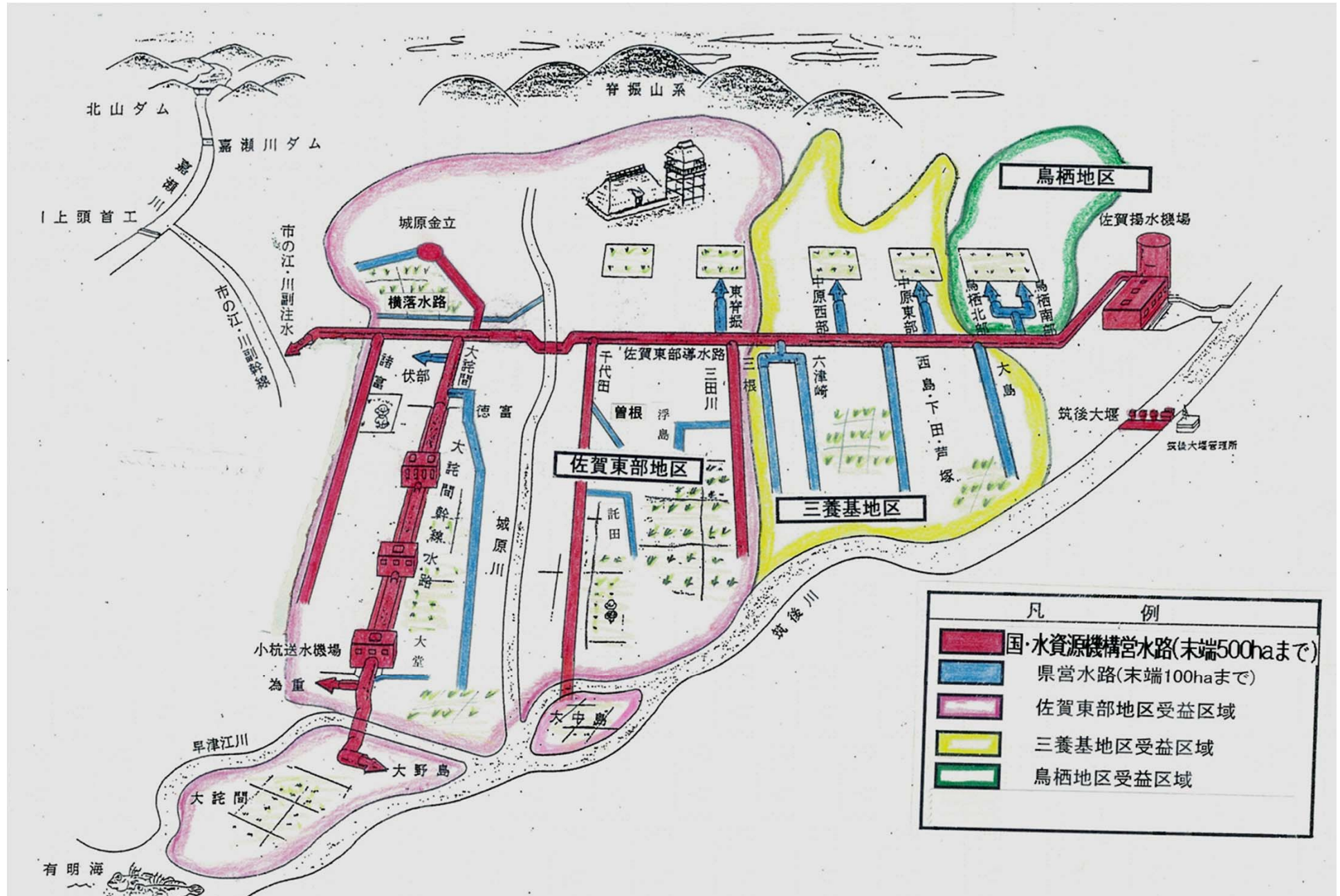
# **県営かんがい排水事業**

- **三養基地区**
- **鳥栖地区**

# 佐賀・筑後平野 41,000ha



# 筑後川下流地区(東部地域)模式図



# 淡水(アオ)取水・・・とは

干満の差 が大きい 有明海  
の 上げ潮 を利用し 取水  
↓  
クリークに貯留

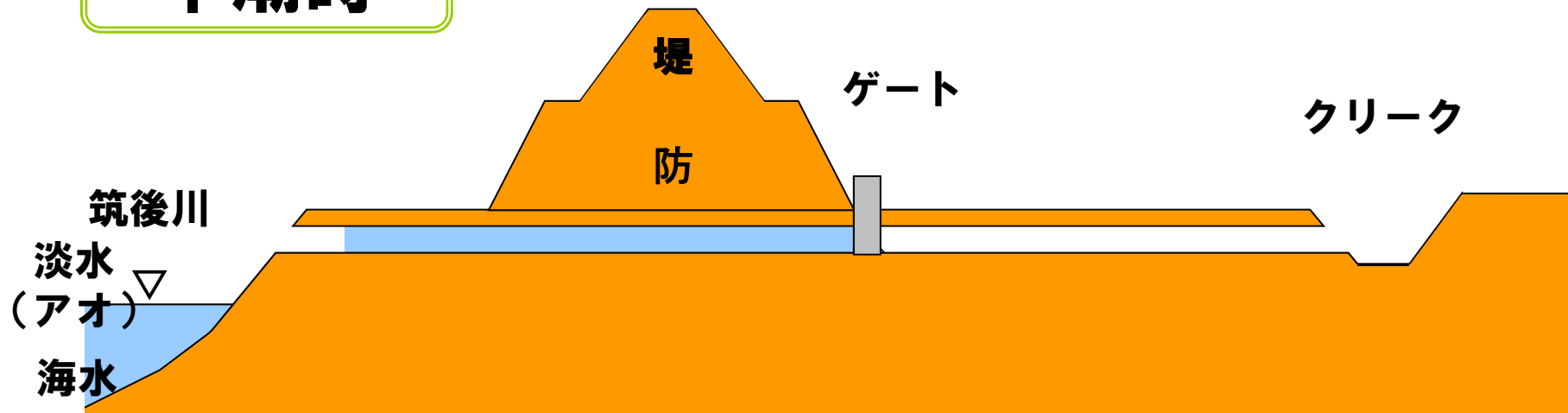
取水時期が限定（1日2回）  
小潮時は厳しい

河川流量が少ない時は取水不可能  
（塩分濃度が高い）

取水のタイミングが重要  
（ゲート操作員の経験）

不安定な取水

干潮時



# 用水不足の状況 (平成6年の渇水)

雨が少ない！  
河川の流量が少ない！



早津江川から  
サンドポンプ  
船でアオを取  
水（7月）

川副町  
大詫間地区



アオ取水ができ  
ず、ポリタンク  
で給水。稲は枯  
死寸前（8月）

ため池の底を掘り、わずかな  
湧水を取水（8月）

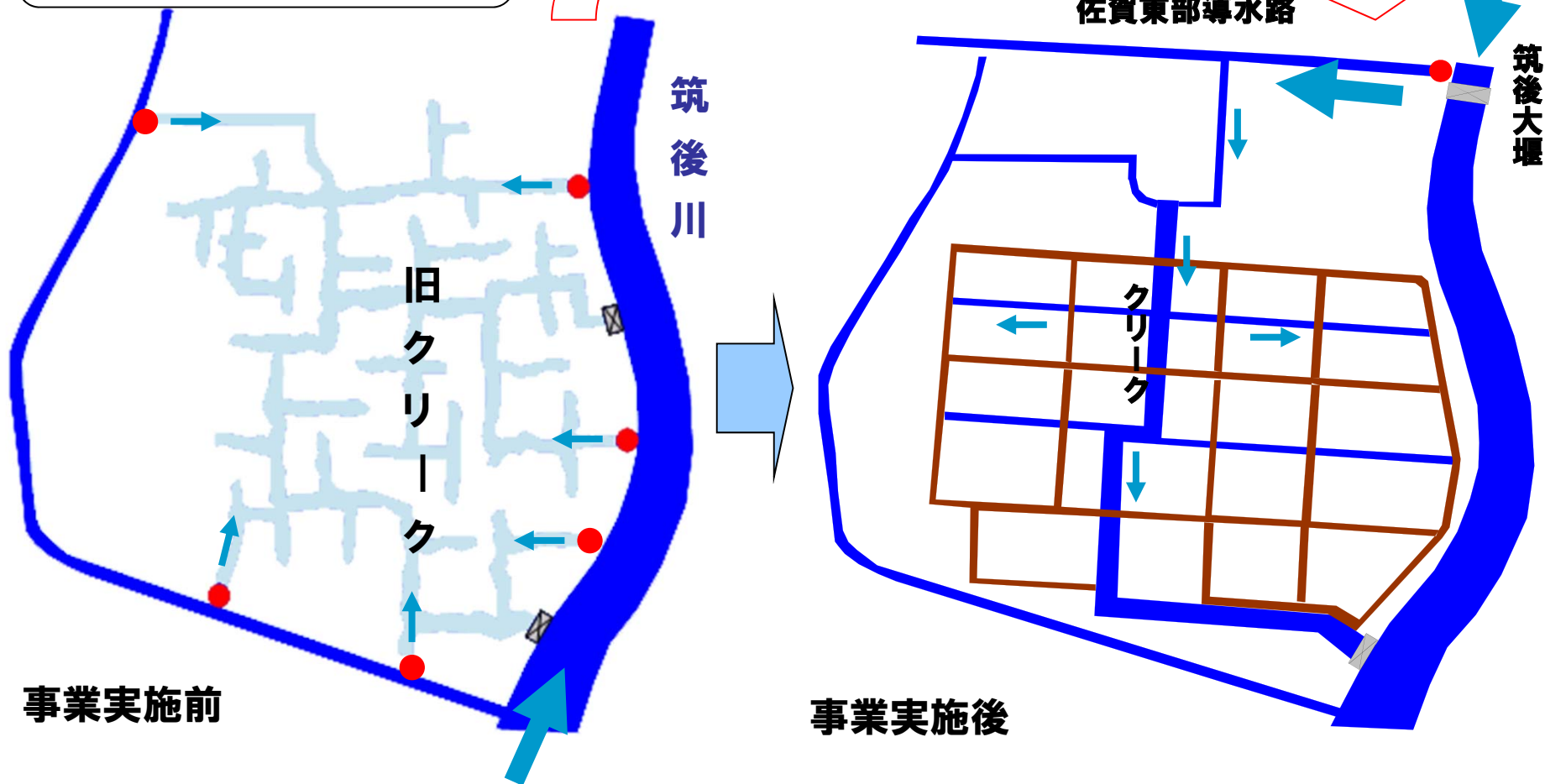


みやき町石橋ため池

# 合口取水・・・とは

取水口を筑後大堰  
1箇所へ統廃合  
(合口)

淡水(アオ)取り施設  
(佐賀県で176箇所)



事業実施前

事業実施後

## 筑後大堰



(右岸：佐賀県みやき町、左岸：福岡県久留米市)

# 佐賀揚水機場



三養基郡みやき町（旧北茂安町）



**水資源機構宮佐賀東部導水路 布設狀況**  
**(管徑 3.0m)**

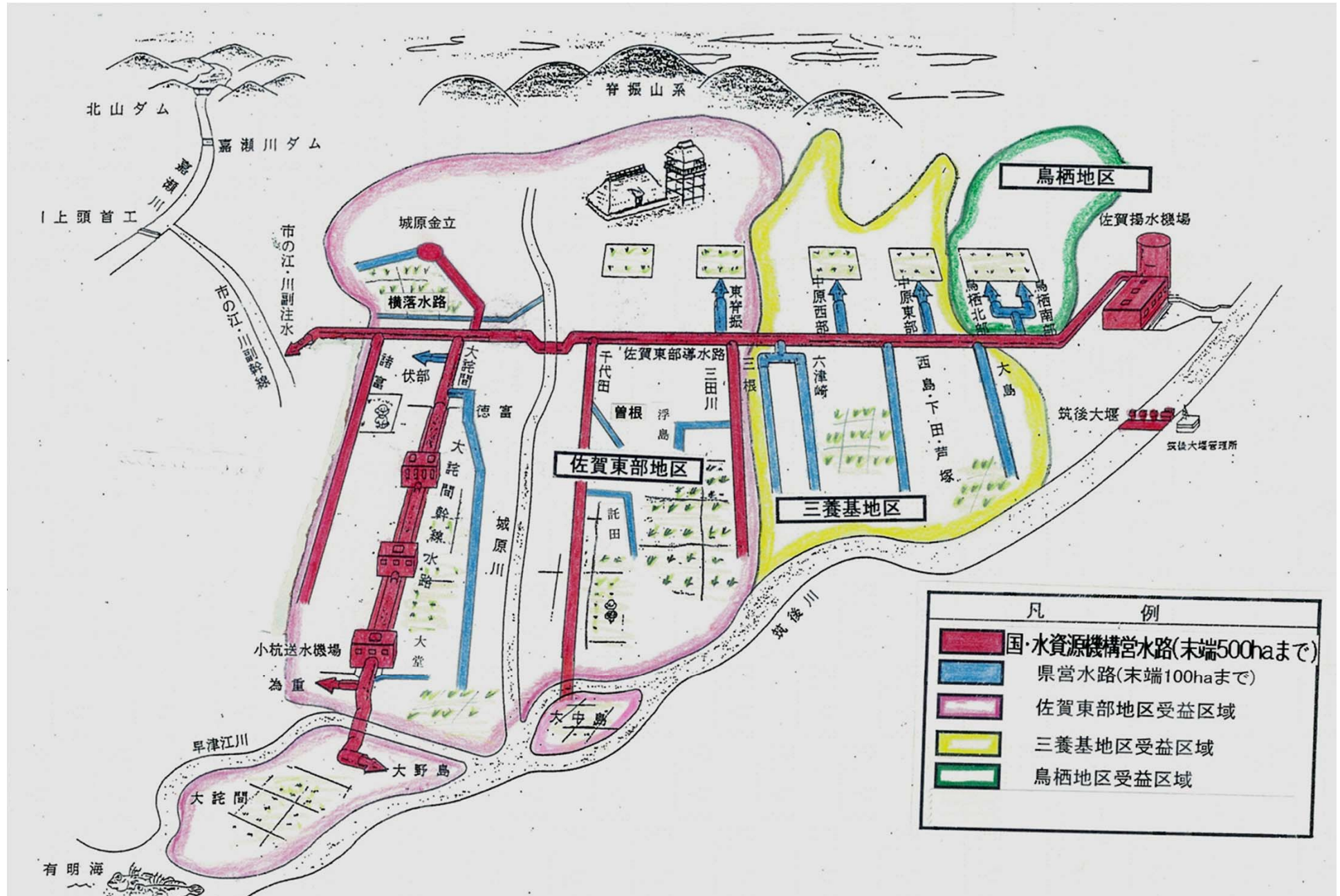


**平成22年度公共事業再評価**

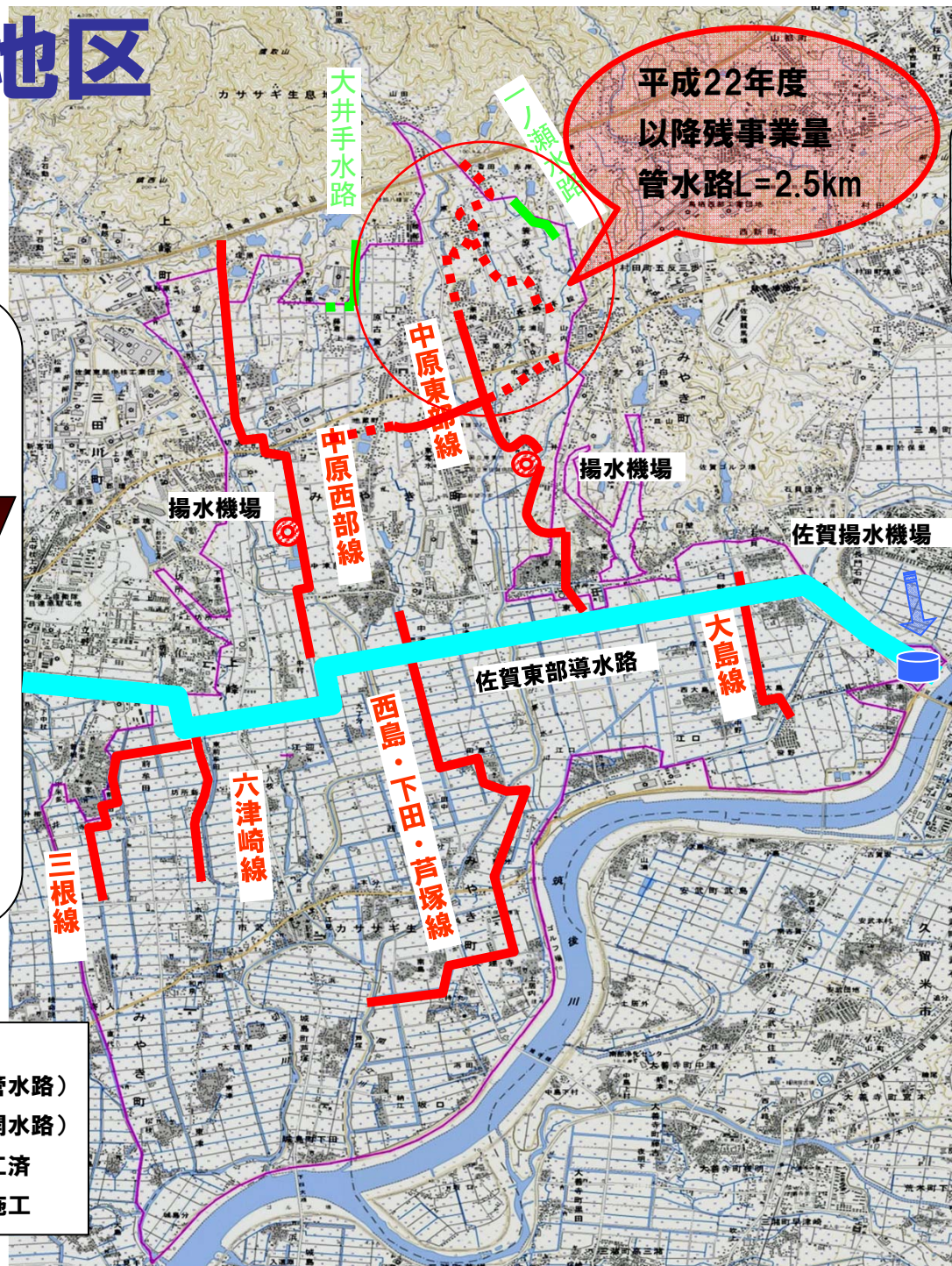
**県営かんがい排水事業**

**三養基地区**

# 筑後川下流地区(東部地域)模式図



# 三養基地区 概要図

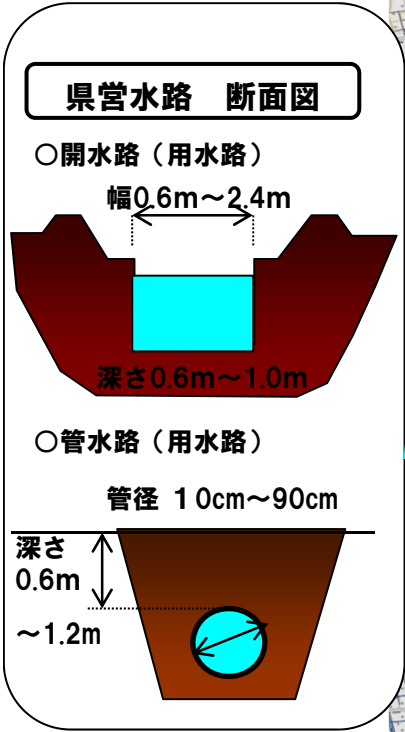


**【受益面積】**  
2,097 ha  
(みやき他2市町)

**【事業量】**  
管水路 24 km  
開水路 2.3 km  
**【事業費】**  
55.5億円

平成21年度末  
進捗率75%

**【工期】**  
昭和58年度  
～平成26年度



	受益面積
	県営水路（管水路）
	県営水路（開水路）
実線	H21迄施工済
破線	H21迄未施工

# 既に効果を発揮している施設

県営六津崎線 分水口の利用状況



県営中原西部線 分水口の利用状況



# 三養基地区 の経済効果

総費用

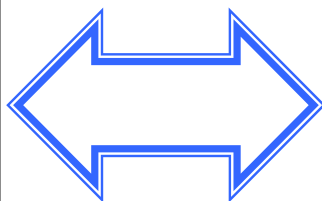
488億円

【団体営】ほ場整備事業  
かんがい排水事業

【県営】  
ほ場整備事業  
かんがい排水事業

【国営】  
【水資源機構営】  
かんがい排水事業

投資効率  
1.15



総効果額

561億円

公共施設保全効果

更新効果

維持管理費節減効果

営農経費節減効果

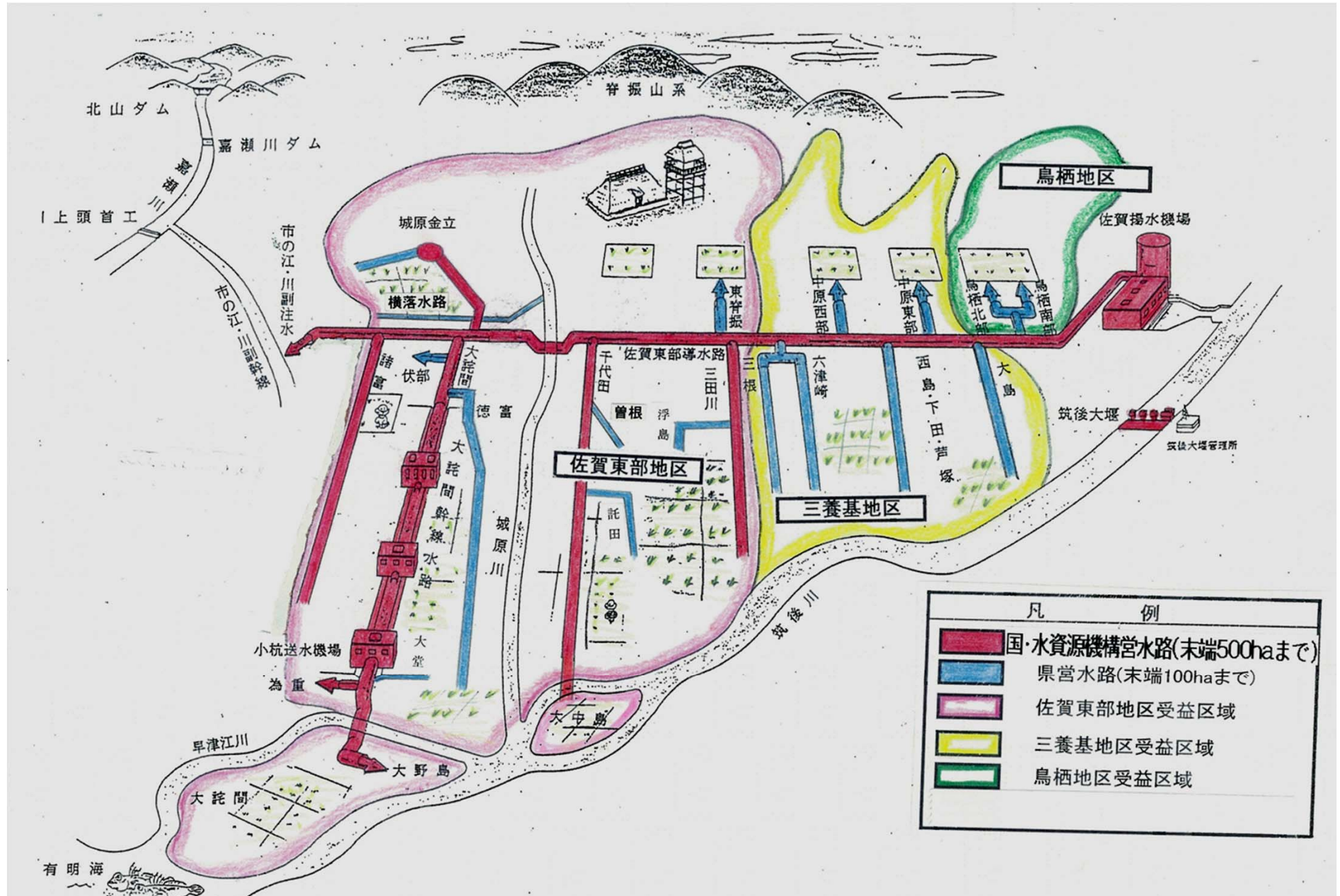
作物生産効果

**平成22年度公共事業再評価**

**県営かんがい排水事業**

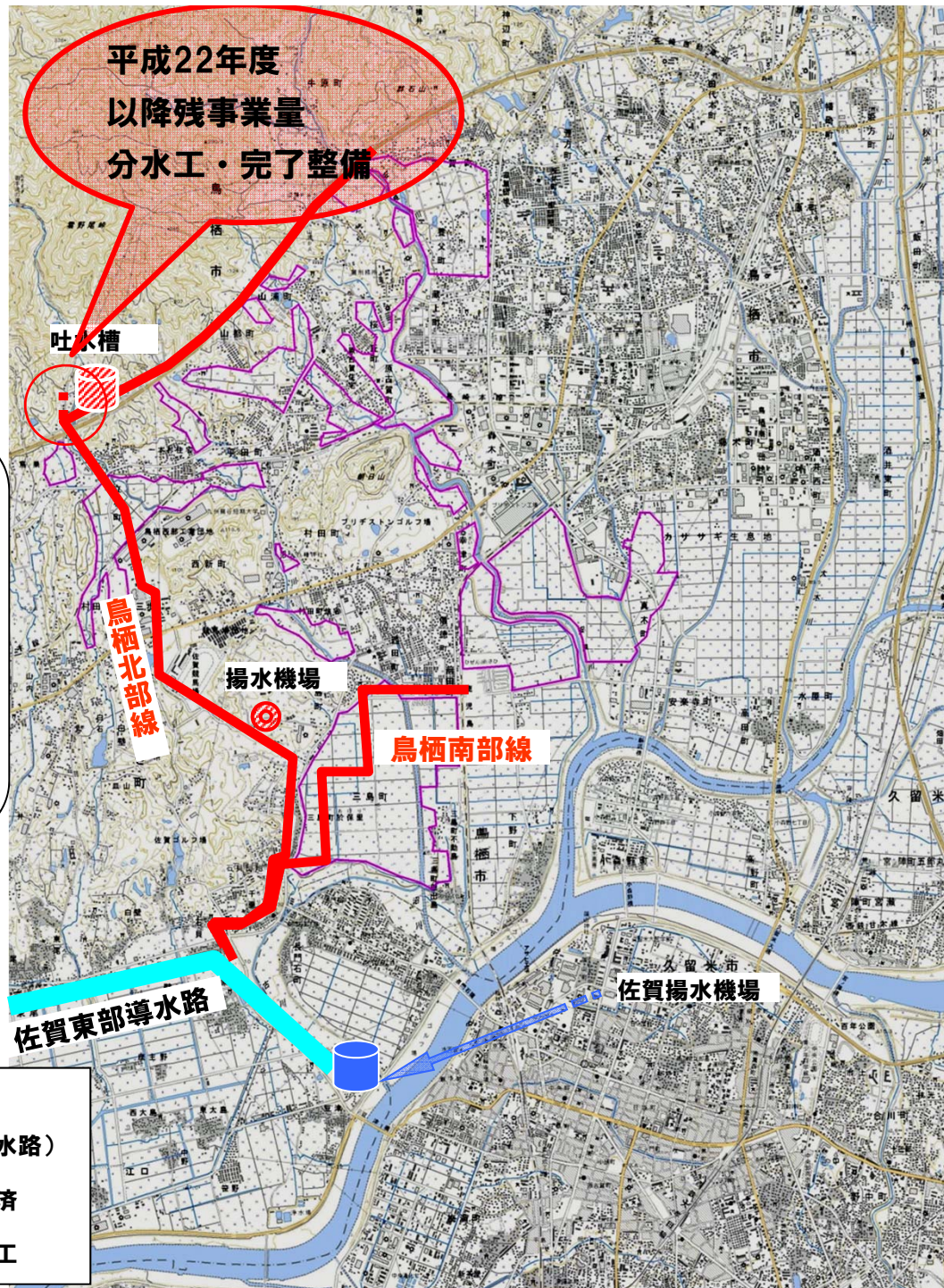
**鳥栖地区**

# 筑後川下流地区(東部地域)模式図





# 鳥栖地区 概要図

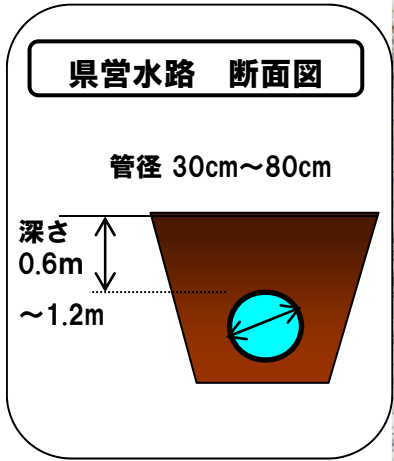




**【受益面積】**  
411 ha  
(鳥栖市)

**【事業量】**  
管水路 17.5 km  
**【事業費】**  
37.8億円

平成21年度末  
進捗率97%

**【工期】**  
昭和60年度  
～平成23年度



-  受益面積
-  県営水路 (管水路)
- 実線 H21迄施工済
- 破線 H21迄未施工

# 既に効果を発揮している施設

県営鳥栖南部線 分水口の利用状況



県営鳥栖南部線からファームpond  
(水槽)へ接続し利用



# 鳥栖地区 の経済効果

総費用

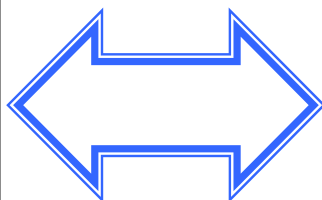
117億円

【団体営】ほ場整備事業  
かんがい排水事業

【県営】  
ほ場整備事業  
かんがい排水事業

【国営】  
【水資源機構営】  
かんがい排水事業

投資効率  
1.65



総効果額

193億円


維持管理費節減

営農経費節減

作物生産

# 事業の必要性の検証

## 社会情勢（農業情勢）

農産物価格の低迷 / 担い手の高齢化 / 食料自給率の低迷 / 米改革（H16～22）  
引き続き  農業の生産性向上が求められている

## 地域の意向

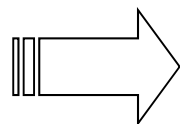
地域の意向（直接の受益者であり費用負担者でもある農家も含む）を踏まえ、計画を微修正しながら事業の推進を行っている。〔路線、構造、受益地等〕

## 計画内容の再チェック

計画の妥当性（事業の必要性、工事計画、費用対効果、地域の意向等）を、当初計画と同じレベルで再チェックしながら事業を推進している。〔三養基：H17、鳥栖：H21〕

## 部分効果の発現（三養基・鳥栖）

- ・通水面積：H18 / 1, 177 ha（47%）→ H21 / 2, 150（86）→ H26 / 2, 508（100）
- ・H14, H17（H6を上回る少雨）でも、大きな渇水被害を回避できた。



**事業の必要性は変わらない**

# 事業実施の確実性

## ◎ 関連事業の進捗

水路の100%完成  
(H21までに  
佐賀東部地域)

面工事は100%完成  
(H18までに  
関係地区完了)

国・水資源機構営  
かんがい排水事業

県営  
ほ場整備事業

+

県営かんがい排水事業

水路の約90%完成

◎ 厳しい財政状況を踏まえ、限られた財源を有効活用し  
事業効果が早期に発現できるよう継続地区へ重点配分する

鳥栖地区はH23年度、三養基地区はH26年度完了